



「アジア高校生架け橋プロジェクト」招聘留学生 Socheata Diep(日本での呼び名は、ひまりさん) 河口小・北中で楽しく交流



Socheata Diep さん

「アジア高校生架け橋プロジェクト」は政府がアジア諸国のリーダーになる高校生を日本に招聘して、高校に通学させ、日本との懸け橋になってもらいたい、との意図で4年前から始まった文科省事業です。今年度は19か国から235名が来日。留学生は無償ボランティアの家庭にホームステイし、無償で高校に受け入れてもらっています。

今回来日した Socheata Diep(日本での呼び名は、ひまり)さんは、カンボジア王国出身の17歳の女性です。富士河口湖町河口のお宅にホームステイし、富士河口湖高校1年生に配属され、11月12日より通学しています。せっかくの機会ということで、河口小と北中の



ひまりさんと記念撮影 河口小の子どもたち



ロンドンばしで盛り上がった音楽の授業

子どもたちとも交流しました。

河口小では、5年生を中心に交流。音楽では、日本の曲「冬けしき」を紹介したり、一緒に「ロ

ンドンばし」を歌ったりしました。体育では、バスケットボールをして楽しみました。休み時間には運動会のエイサーを披露し、最後には自分たちで作ったお米をプレゼントするなど、歓迎の気持ちを精一杯表現した子どもたちでした。

北中では、全ての学年と交流。1年生との交流では、ひまりさんに将来の夢やカンボジアの紹介をしてもらったり、みんなでカンボジア国歌を歌ったりして楽しい時間を過ごしました。2年生との交流は、All English Class「Let's get to know each other」。グループごとにひまりさんへの質問を考えて英語で質問したり、ひまりさんからの質問に英語で答えたりして、生き生きと活動し、お互いを知り合うことができましたようです。全て英語でのやり取りでしたが、友達と相

談したり、辞書で調べたりして、自分たちの力で活



ひまりさんと記念撮影 北中1年生



歓迎セレモニーで北中ソーランを披露



北中 2 年生の英語の授業



ひまりさんに英語で質問

動する姿は、さすが中学生といった感じでした。3年生とは昼休みに日常会話で楽しく交流することができました。

コロナ禍、異文化交流

が難しい状況の中、交流できたことは、お互いにとって貴重な経験となったことでしょう。同じ時間を共有することで外国の習慣や文化を身近に感じ、得られた新しい知識によって視野を広げていくことができたことと思います。今回の交流で英語を学ぶモチベーションも一段とアップし、「いつか自分も留学してみたい」と夢をもった子どもたちも多くいたのではないのでしょうか。



富士山科学研究所の先生方

第 4 回 研究員会（富士山学習研究会）

富士山科学研究所との連携で行われている防災教育

・研究内容を全職員に周知 ・連携授業を教育課程に位置付けて

研究員会も今年度 4 回目となりました。回を重ねるごとに研究を深めることができています。今回も盛りだくさんの内容となりました。その中でも、特に「避難訓練の検証と見直し」と「富士山科学研究所との連携」については、学習会という形で、詳しく説明をしていただきました。



研究員の先生方

まず、「避難訓練の検証と見直し」については、富士山科学研究所の久保智弘先生より、小立小学校での震度 6 弱を想定した避難訓練や火災避難訓練について明らかになった成果と課題について説明していただきました。子どもたちの大切な命を守るためにも、今回の訓練を参考に、各校

でも今まで以上に実践的な訓練を実施していく必要性を感じた報告でした。

次に「富士山科学研究所との連携」については、富士山科学研究所の吉本充宏先生より、勝山小学校での防災授業について説明していただきました。今回の授業は、授業参観を兼ねて行ったため、防災について家庭・地域へと広げていくきっかけになり、大変意義のある授業になったという報告がありました。また、「富士山噴火の減災に資する実験教材の開発」については、「①実験装置の開発⇒②テキストの開発⇒③開発教材の実験と改善⇒④知識の定着度の検証⇒⑤教材のパッケージ化、こうした流れの中で研究を進めている。先生方の負担をできるだけ軽減できるような仕組みを構築していきたい。」と学校現場を考えて研究を重ねていただいている内容が発表されました。

学校現場では、富士山科学研究所との連携による授業を展開しております。専門的に研究している先生方の力をお借りして授業を行うことは、子どもたちにとっても、先生方にとっても大きなメリットがあります。最終的には先生方の力でできるようにしていくことを目指してまいります。まずは連携による授業を教育課程に位置付けて、更に授業を充実させていっていただきたいと思います。防災教育を進めるうえで、この研究会の果たす役割は非常に大きなものがあります。